

## 東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	第 19 回韓国パンフルートセミナーに招聘されて～咲久徠史子作曲作品を含む演奏と日本のパンフルート教育活動の公演報告～
Title in another language	Invited to the 19th Korean Panflute Seminar; performance including works composed by Fumiko Sakura; report on Japan's panflute education activities
Author(s)	咲久徠史子 (SAKURA Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 14, p. 65-71
Date of issue	2025-03-26
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	<a href="https://tcm-minken.jp/publication/IE_B14202406.pdf">https://tcm-minken.jp/publication/IE_B14202406.pdf</a>

第19回韓国パンフルートセミナーに招聘されて  
～咲久徠史子作曲作品を含む演奏と日本のパンフルート教育活動の公演報告～

Invited to the 19th Korean Panflute Seminar;  
performance including works composed by Fumiko Sakura;  
report on Japan's panflute education activities

咲久徠史子 SAKURA Fumiko

パンフルートは世界最古の楽器の一つとされる。旧約聖書に、ユバルが最初に吹いた楽器としてその名が見られる。ギリシャ神話の中に登場する牧神パンが吹いていたとされる楽器だ。ダフニスとクロエの恋愛物語にも登場し、様々な形状のパンパイプを世界各国で見ることができるが、ルーマニアでは民族楽器「ナイ」として演奏されてきた。アジアにおいても歴史を遡ると古くから民族楽器として演奏された歴史があり、中国、韓国、日本にも歴史上で登場する楽器だ。近年、日本ルーマニアパンフルート協会を中心として、アジアでのパンフルートの国際交流も活発になってきており、アジアが一つになりパンフルートの普及を推進していくことが求められる。今回は、日本人として初めて咲久徠史子が韓国で開催されたセミナーに招聘され、自身の作曲作品の紹介と日本のパンフルートの演奏、教育、研究活動について公演を行った報告である。

キーワード：パンフルート Panflute、パンフルート奏者 Panflutist、  
ルーマニア Romania、ゲオルゲ・ザンフィル Gheorghe Zamfir、  
咲久徠史子 Fumiko Sakura、韓国 Korea

## 1. はじめに

パンフルートは世界最古の管楽器の一つと言われ、旧約聖書にその名が見られ、ユバルが最初に吹いた楽器とされる。古代ギリシャ時代には、ギリシャ神話の中に登場する牧神パンが吹いていたとされる楽器だ。様々な形状のパンパイプがヨーロッパ、南米、アフリカ、アジアを始め世界中に存在し、ルーマニアでは、民族楽器「ナイ」として演奏されてきた。アジアでも歴史は古く、中国、韓国、日本においても歴史上に登場しており、近年演奏者の数も増え、アジアでの普及も着実に進み演奏技術も向上している。

今回は、日本人として初めて韓国におけるパンフルートセミナーに筆者が招聘され、自身の作曲作品を含む演奏と、日本におけるパンフルートの普及・教育活動の公演報告を行った。この公演に招聘され、初めて韓国のパンフルート愛好家達とリアルに交流する機会を得た。韓国の人々がパンフルートと真摯に向き合い取り組む姿勢に強く感銘を受け、パンフルートへの深い愛と情熱、そして何よりも音楽を楽しむことの大切さを再認識させられる機会となったのである。

## 2. 韓国パンフルートセミナー

### 2-1. 韓国パンフルートセミナーの歴史

韓国パンフルート協会のグループは最も歴史が古く1988年に始まり、1989年に檀国大学校 (Dankook University) でのグループが結成された。現在の活動人数は約100名ほどだが、累計では1000人近くが参加していたと初代会長の Jang Seokman (ジャン・セオクマン氏) は語る。韓国パンフルートセミナーは2024年で19回目を迎え、毎年韓国のソウル市内で開催されている由緒あるセミナーである。今までに名だたるプロパンフルート奏者達がセミナーに招聘され公演を行ってきた実績がある。2000年と2001年には Gheorghe Dumitru 氏が招聘され、2008年には、Michel Tirabosco 氏、2013年と2014年には、Horea Crishan 氏、2018年には再び Michel Tirabosco 氏が公演を行なっている。昨年度には、韓国のパンフルート奏者である Jeong Jopng-soo 氏が講演を行うなど、伝統ある韓国パンフルート協会のセミナーには、数多くの著名な奏者達が韓国を訪れている。



第19回 韓フルートセミナー 참가 신청 안내

- 일시 : 2024. 2. 17(토) 오후 1시-18(일) 오전 10시 (1박 2일)
- 장소 : 서울유스호스텔(서울특별시 중구 퇴계로 26가길 6)
- 주최 : Panflute연합(www.panflute.org)
- 주최 : Panflute연합 회원 및 비회원
- 주요 프로그램
  - 일본 전통혼 연주자 겸 작곡가 '후미코 사쿠라' 특강 및 연주
  - 전통혼 연주법 특강 (강사: 장서만, 조항민, 김연정, 이영희 등)
  - 분임별 활동 (전통혼 연습 및 연주법 나눔)
  - 특별 연주회 및 자유 연주회
- 참가 신청 방법 - 참가비 입금 후 담당자에게 '참가자 성명'을 문자 전송
  - 참가비 입금 계좌 : 우리은행 1005-001-975235 Panflute연합
  - 담당자 전화 번호 : 010-2657-6474(이영희)
  - 참가 신청 마감 : 2024. 1. 13(토)
- 참가비 : Panflute연합 회원 - 숙박 8만원, 비숙박 5만원  
비회원 - 숙박 9만원, 비숙박 6만원
- 세미나 자료집, 간식, 석식(1일차), 속소, 조식(2일차) 제공
- 후미코 사쿠라의 창작 악보집 및 CD 구입 희망 시 추가 입금  
창작 악보집(피아노 반주포) 1집+2집+연주CD=총 9만5천원



Fumiko Sakura  
[咲久 徠史子]

写真1. 韓国パンフルートセミナー  
出典 : 韓国パンフルート協会

## 3. パンフルートセミナーの内容

パンフルートセミナーは、1泊2日で行われ、昼の13時から夜の22時までと長時間に及び開催される。会場はソウル市内にあるユースホステルで、総勢88名が参加した。三部構成になっており、第一部では基礎的な奏法や曲の練習が行われ、Peder Rizzi の作曲作品、また咲久徠史子の作曲作品の代表作の一つである《新月の竹》、《ホールニューワールド》の練習が行われ合奏披露された。第二部では、咲久徠史子の講演が行われ、日本におけるパンフルートの演奏、教育、研究の活動と取り組みが紹介された。また、咲久徠史子の作曲作品の紹介とともに、咲久徠史子作曲作品、ルーマニア民謡、ザンフィル作曲作品が演奏された。第3部では88名のメンバーによる発表が行われ、ソロやグループなどの演奏を堪能することが出来た。以下、セミナーの内容について報告する。



写真2. 韓国パンフルートセミナー集合写真 出典 : 韓国パンフルート協会

### 3-1. 基礎的な奏法

講師：Jang Seokman

最初のレッスンでは、フレーズとアーティキュレーションの使い方についてレッスンが行われた。レガート、ノンレガート、アポジャトゥーラなど基礎的な奏法、連続的に繰り返される音、連続して同じ音を演奏する時に強弱が変わるようにリズムが変わるように演奏しなければならないとの説明がある。そして、やり取りのリズム、音符、コードを交互に使用するリズムであるホケットの説明がある。14世紀のフランスとスペインの大衆音楽から出た手法で古典派ロマン派でよく使われるものだ。続いて、スタッカーティシモ、メゾスタッカートについて説明があり、曲調や解釈によっても異なる等の説明があった。

続いて、パンフルートの練習に役立つ音楽アプリケーションのダウンロード方法の説明やネットの活用方法などの講義もあり、現代に即したレッスンをしている点は大変興味深く参考になった。MP3の変換方法や速度の調整方法なども紹介され、すぐに練習で活用できる実践的な内容である。

### 3-2. 韓国パンフルート協会メンバーによる咲久徠史子作曲作品の演奏発表

演奏曲：新月の竹

作曲：咲久徠史子

編曲：佃恵井子、SY

演奏：韓国パンフルート協会会員

韓国パンフルート協会のメンバーにより、韓国の編曲者SYによる編曲、咲久徠史子が2021年に作曲した代表曲の一つである《新月の竹》が二重奏での演奏された。日本人が古来より愛してきた竹と月の物語である。竹を使つては身近なものを作り、生活に取り入れ活用してきた。また月を愛でては愛を語り合う。日本最古の物語竹取物語にも竹と月が登場する。この作品は、新月といつても真っ暗闇の不気味な雰囲気とは異なり、久しぶりに会った友人との穏やかな時間と空間が表現された作品である。筆者の韓国訪問に合わせて練習を重ねた協会の方々の粋なサプライズであり、韓国と日本の深いパンフルートの友情・絆を感じる瞬間であった。



写真3. Jang Seokman の授業 出典：咲久徠史子



写真4. 韓国パンフルート協会初代会長とともに 出典：韓国パンフルート協会

88名によるパンフルートの合奏は初めて聴いたが、二重奏であり、またある程度の跳躍もある曲だが、ミスタッチが少なく、技術力の高さと練習をしっかりと積み重ねてきていることが伝わってくる良い演奏であった。特に驚かされたことが、全国各地から協会会員等が集まってきており、全体での合わせは発表前のみ行われていたということである。それにも関わらず、音程も乱れることがなく、正確であり、韓国コミュニティの全体的なレベルの高さに驚かされたと同時に、音色がとても心地よく、新月の竹で表現されている穏やかな時間と空間を感じることができたのである。

演奏曲：海松色

作曲：咲久徠史子

編曲：佃恵井子

演奏：Jang Seokman

歓迎演奏として韓国パンフルート協会の初代会長である Jang Seokman 氏による演奏が行われた。演奏作品は、咲久徠史子作曲作品《海松色》(2022年)である。この作品は、美しい景色、海松色に輝く海と山に囲まれている場所である。海松色とは、海藻の海松にちなんだ色である。茶色みを帯びた深い黄緑色、古代には一般的な食用の海藻として親しまれていた。『万葉集』にも「見る」の掛詞としてその名がみられ、『風土記』にも登場する。宮内庁雅楽部の管弦を演奏する際の楽人の衣装はこの海松色の直垂なのだ。

Jang Seokman 氏による演奏は、抜群の安定感があり、パワフルな演奏に驚かされた。低音域は管が振動し、温かい音色を出し、高音域も柔らかくしっかりと響いていた。海松色は、哀愁漂う作品であるが、ビブラート奏法を活用し、音と音の感覚を揺らしながら、人々の心を揺さぶるような音色を会場に響かせていた。



写真5. Jang Seokman による演奏 出典：韓国パンフルート協会

演奏曲：宮代の庭

作曲：咲久徠史子

編曲：佃恵井子

演奏：Jang Seokman、咲久徠史子

韓国パンフルート協会の初代会長でもあるジャン氏からの提案で、咲久徠史子作曲作品パンフルート曲集 No2 に収録されている《宮代の庭》を二重奏で演奏した。この作品を作曲してから初めて二重奏で演奏する機会を得た。パンフルートのソロ演奏とは違う楽しさと心地良さを感じることができる。二重奏や三重奏など、楽器の種類も豊富な現代ならではの楽しみ方もできる魅力を再発見する機会となった。今後もソプラニーノからコントラバスの音色まで多彩な楽器の良さを発揮できる作曲作品を生み出す取り組みも行っていきたい。



写真6. Jang 氏と咲久俵による韓国パンフルートデュオ演奏 出典：韓国パンフルート協会



写真7. Jang 氏と咲久俵による韓国パンフルートデュオ演奏 出典：韓国パンフルート協会

#### 4. 日本におけるパンフルートの演奏・教育・普及・研究活動の取り組みに関する発表

講師：咲久俵史子

今回の講演は、日本におけるパンフルートの歴史と、日本ルーマニアパンフルート協会（2019年創設）がコンサート、ワークショップ、レッスンやマスタークラスの実施、海外の奏者を招聘して日本パンフルートフェスティバル、世界初のオンラインで世界から奏者が集結したパンフルートフェスティバルの開催など、国際交流も推進していることについてお伝えする機会となった。東京音楽大学で社会人特別講座にパンフルート専攻が創設されたとき、成蹊大学パンフルートグループが立ち上がり、2024年にはパンフルートサークルに格上げになったことなどを紹介した。また、同時に研究論文の発表も行い、ルーマニアにおけるパンフルートの歴史についてお話しする機会を得た。韓国においてもルーマニアのパンフルート教授法や演奏技術の高さは知られているところだが、歴史について明らかになっていない面もあり、大変興味深いとのことをお言葉をいただいた。今後も研究については引き続き深め、ルーマニアや世界のパンフルートの歴史解明に力を注いで参りたい。



写真8. 咲久俵史子によるパンフルート講演 出典：韓国パンフルート協会



写真9. 咲久俵史子によるパンフルートコンサート 出典：韓国パンフルート協会

続いてパンフルートの作曲作品についても紹介する機会を得た。韓国パンフルート協会の多くのメンバーが咲久徠史子の作曲作品の楽譜を購入されており、持参されていた。お隣の国韓国でも多くの方々に作曲作品が愛され、大切に演奏されていることを知り、とても嬉しい気持ちになったのと同時に心から感謝を述べたい。作曲については特に多くの質問を受けた。2016年より作曲活動を始め、現在までに47曲の作品を作曲していることや、2022年より1年毎にパンフルート曲集No1, No2と2冊出版していることも紹介した。また、出版された作品は、ルーマニアの音楽学校とモルドバの音楽学校に寄贈していることなども合わせてお話した。とても良い取り組みであると好評を頂いた。



写真 10. 咲久徠史子作曲作品パンフルート曲集第2版 ~日本の伝統色~

#### 丹青の印：咲久徠史子 作曲

今回の韓国パンフルートセミナーに合わせて、韓国の人々のための作品を作曲し、初演した。この作品は、「丹青の印」というタイトルで、パンフルート曲集の3冊目（2025年予定）に収録される予定の作品である。丹青の五色は、木、火、土、金、水の5行を表す「五方色」とも呼ばれ、美しい韓国の伝統色である。この作品は、韓国のソウルの街を歩き、古宮での美しい丹青との出会いから作曲された作品だ。韓国では、古宮を青緑と柿の色で多彩な紋様と配色で描いている。丹青により、冬のように花々が咲く季節でなくても華やかさが感じられる。韓国の人々への温かい友情や深い感謝の想いが込められた作品だ。



写真 11. 韓国のための咲久徠史子作曲作品《丹青の印》を演奏して 出典：韓国パンフルート協会

## 5. 韓国パンフルートセミナーに招聘されて

今回、初めて韓国のパンフルートセミナーに講師として招聘され、日本のパンフルートの演奏、普及活動、教育活動、研究、そして作曲とパンフルートを軸とした様々な活動を続けたことを評価されたことは大変光栄に思っている。

韓国のパンフルートに取り組む人口は日本に比べて多いが、40代後半から熱心に取り組む方が多く若い方々の数が減少しているとの話を伺った。その点で、少人数ではあるが若い世代が積極的にパンフルートの練習に励む日本の取り組みが注目されている。東京音楽大学の社会人講座にパンフルートの専攻が創設され教育活動が行われていること



写真 12. 韓国の丹青 写真提供 : Minseok



写真 13. 韓国の古宮を彩る丹青 写真提供 : Minseok

は、韓国の方々にも刺激を与えているようである。お隣の国である韓国では、パンフルートのスタイルが日本と異なる点が多くあり、大変興味深い。日本独自のスタイルを作り上げている状況にあることを、韓国で感じた。双方の良さがあり、それぞれの国の文化的な背景によっても音楽のあり方が異なる。これは大変興味深く、韓国との演奏法の違いなどについては、改めて研究を深めていくことが求められると考える。今後の研究で明らかにしていきたい。ルーマニアの伝統楽器であるパンフルート（ナイ）が、アジアの隣国でも民族の楽器としての新たな 1 ページを刻んでいた。日本のパンフルートの歴史が再び動き出している今、私達も日本のスタイルをより一層磨きをかけ、アジアでまずは手を取り合いながら、国際的な教育と研究と国際交流を推し進め、パンフルートの輪を広げ、国際社会に民族音楽の視点で貢献するべき時が来ているのである。東京音楽大学のパンフルート専攻が、日本のパンフルート界で果たす役割を考え、研鑽に励むことが必要であり、今後の課題だ。

(本学講師 パンフルート)

